

【科目名】	研究法	専門分野 (1単位)	【講師名】	佐藤 大樹(理学療法士):医療機関にて7年実務経験			
【講義期間】	3年次後期		【対象学生】	第3学年 理学療法学科			
【時間数】	15時間 (2時間 8回)		【時間帯】	9:00 ~ 12:10 (他時間割参照)			
授業内容・目標	実習を通し、経験・学んだ症例を通して、1年次から3年次まで学習した知識の総復習を行う。また、同時に再度症例に対して考察・実施内容の再検討を行う事で、知識の定着を図り、今後の臨床に繋げられるよう学習する。						
前提知識	1年次から3年次までの基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識						
【実施形態】	講義(<input type="radio"/>) 演習(<input type="radio"/>) 実習(<input type="radio"/>)						
到達目標	各分野についての知識の定着 各疾患における知識の応用能力の習得						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	5	90			5	
	実施時期	平時	当科目終了時			当科目内	
	補足	質疑応答など	障害像など				
	関心・意欲	○	○			○	
	知識・理解		○			○	
	思考・推論		○			○	
	実践・表現					○	

授業計画				
	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	理学療法と研究①	症例に対する一般・社会的・医学的情報の整理と解釈	佐藤
	2	理学療法と研究④	理学療法評価からの解釈・統合と妥当性の検討 理学療法評価からの治療選択と妥当性の検討	
	3	研究と解釈①	治療実践における経過からの解釈と妥当性の検討	佐藤
	4	理学療法研究の展開①	介入開始から終了までを通した、症例における解釈と考察 介入終了後における予後・生活面を含めた解釈と考察	
	5	まとめと評価①	症例を通じて学んだ基礎知識、専門知識 理学療法を行う上で必要な知識全般	佐藤
	6	まとめと評価②		佐藤
	7	まとめと評価③		佐藤
	8	まとめと評価④		佐藤
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書 参考書	1年次から3年次までに使用した教科書と参考書			
授業に必要な物				
備考	ディスカッションは積極的に参加する事。また授業外で知識の復習を積極的に行う事。			

【科目名】	臨床実習Ⅱ－②	専門分野（8単位）	【講師名】	実習調整：高村 真司(理学療法士):医療機関にて12年実務経験 木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験			
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】	第3学年 理学療法学科			
【時間数】	360時間		【時間帯】	9:00～17:00(他時間割参照)			
授業内容・目標	指導者の元、理学療法の対象者に対して、基本的理学療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。自己の理学療法士としての自覚を高めることが出来るよう、各施設の臨床現場で実習を実施する。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した理学療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義()		演習()		実習(○)		
到達目標	職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的理学療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	臨床実習 総合評価報告書 総合評価に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
実践・表現	○			○	○		

授業計画			
	回数	テーマ	講義内容・キーワード
8 / 2 3 5 1 0 / 2 2	1	臨床実習Ⅱ－②	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
教科書 参考書	1年次から3年次まで使用した教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類		
授業に必要な物			
備考			

【科目名】	臨床実習Ⅱ－①	専門分野（8単位）	【講師名】	実習調整：高村 真司(理学療法士):医療機関にて12年実務経験 木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験			
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】	第3学年 理学療法学科			
【時間数】	360時間		【時間帯】	9:00～17:00(他時間割参照)			
授業内容・目標	指導者の元、理学療法の対象者に対して、基本的理学療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。自己の理学療法士としての自覚を高めることが出来るよう、各施設の臨床現場で実習を実施する。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した理学療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義()	演習()	実習(○)				
到達目標	職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的理学療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	臨床実習 総合評価報告書 総合評価に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
思考・推論	○			○	○		
実践・表現	○			○	○		

授業計画			
	回数	テーマ	講義内容・キーワード
5 / 2 4 / 7 / 2 1	1	臨床実習Ⅱ－①	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
教科書 参考書	1年次から3年次まで使用した教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類		
授業に必要な物			
備考			

【科目名】	理学療法 各論Ⅱ(症例検討)	専門分野 (1単位)	【講師名】	木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験 佐藤 大樹(理学療法士):医療機関にて7年実務経験	
【講義期間】	3年次前期			【対象学生】	第3学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)			【時間帯】	9:00～12:10(時間割参照)

授業内容・目標	各教員がケースバイザーになり、学生個人個人に指導を促し、理学療法の一連の流れを理解する。
前提知識	1年時～2年時終了までの知識や疾患の捉え方など総合的な知識、思考が求められる。
【実施形態】	講義() 演習(○) 実習()
到達目標	理学療法の一連の流れについて理解を深める。

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)			100%			
	実施時期			15回目			
	補足						
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解	○		○	○		
	思考・推論	○		○	○		
実践・表現	○		○	○			

授業計画

回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
1	症例に対する理学療法について(PBL)①	初期評価(動作観察、統合と解釈、問題点抽出、、目標設定、治療プログラム、考察)	木幡
2	症例に対する理学療法について(PBL)②	初期評価(動作観察、統合と解釈、問題点抽出、、目標設定、治療プログラム、考察)	木幡
3	症例に対する理学療法について(PBL)③	治療実施(治療結果の判断解釈)	木幡
4	症例に対する理学療法について(PBL)④	治療実施(治療結果の判断解釈)	木幡
5	症例に対する理学療法について(PBL)⑤	治療実施(治療結果の判断解釈)	佐藤
6	症例に対する理学療法について(PBL)⑥	治療実施(治療結果の判断解釈)	佐藤
7	症例に対する理学療法について(PBL)⑦	最終評価結果の配布(動作観察の判断解釈)	佐藤
8	症例に対する理学療法について(PBL)⑧	最終評価結果の配布(動作観察の判断解釈)	佐藤
9	症例に対する理学療法について(PBL)⑨	最終評価結果の配布(判断解釈)	木幡
10	症例に対する理学療法について(PBL)⑩	最終評価結果の配布(判断解釈)	木幡
11	症例に対する理学療法について(PBL)⑪	最終評価結果の配布(判断解釈)	木幡
12	症例に対する理学療法について(PBL)⑫	最終評価結果の配布(判断解釈)	木幡
13	症例に対する理学療法について(PBL)⑬	統合と解釈(レポート作成)	木幡
14	症例に対する理学療法について(PBL)⑭	考察(レポート作成)	木幡
15	まとめと評価		科目担当

教科書 参考書	各疾患についての文献、教科書
------------	----------------

授業に必要な物	パソコン
---------	------

備考	教員とコミュニケーションを取りながら症例検討を進めていく。
----	-------------------------------

【科目名】	理学療法 各論Ⅷ(疾患別)	専門分野 (2単位)	【講師名】	木幡 博人(理学療法士):医療機関にて16年実務経験 高村 真司(理学療法士):医療機関にて13年実務経験 吉田望(理学療法士):医療機関にて25年実務経験 佐藤大樹(理学療法士):医療機関にて7年実務経験
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】	第3学年 理学療法学科
【時間数】	60時間 (2時間 30回)		【時間帯】	9:00 ~ 17:00 (他時間割参照)

授業内容・目標	各教員がケースバイザーになり、学生個人個人に指導を促し、理学療法の一連の流れを理解する。
前提知識	1年時～2年時終了までの知識や疾患の捉え方など総合的な知識、思考が求められる。
【実施形態】	講義(○) 演習(○) 実習()
到達目標	理学療法の一連の流れについて理解を深める。

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		○				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○					
	思考・推論	○					
実践・表現	○						

授業計画				
	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月2日	1	三科目復習	模試の振り返り①	佐藤
4月2日	2	三科目復習	模試の振り返り②	佐藤
4月6日	3	三科目復習	模試の振り返り③	木幡
4月6日	4	三科目復習	模試の振り返り④	木幡
4月7日	5	病理学	総論、病因	佐藤
4月7日	6	病理学	奇形、循環障害	佐藤
4月8日	7	病理学	変性疾患、炎症	佐藤
4月8日	8	病理学	腫瘍、骨・関節疾患	佐藤
4月13日	9	病理学	神経・筋疾患、感染・感染症対策	木幡
4月14日	10	リハビリテーション概論	総論	佐藤
4月14日	11	リハビリテーション概論	ADL・QOL	佐藤
4月15日	12	リハビリテーション概論	法律	佐藤
4月15日	13	リハビリテーション概論	ICF、その他	佐藤
4月16日	14	リハビリテーション概論	ICF、その他	木幡
4月16日	15	中枢神経疾患・筋疾患	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月20日	16	中枢神経疾患・筋疾患	疾患の概要、評価、治療について	高村
4月20日	17	中枢神経疾患・筋疾患	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月21日	18	中枢神経疾患・筋疾患	疾患の概要、評価、治療について	吉田
4月21日	19	中枢神経疾患・筋疾患	疾患の概要、評価、治療について	吉田
4月21日	20	一般内科	疾患の概要、評価、治療について	佐藤
4月21日	21	一般内科	疾患の概要、評価、治療について	佐藤
4月22日	22	一般内科	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月23日	23	一般内科	疾患の概要、評価、治療について	吉田
4月24日	24	一般内科	疾患の概要、評価、治療について	佐藤
4月25日	25	整形外科	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月23日	26	整形外科	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月24日	27	整形外科	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月25日	28	整形外科	疾患の概要、評価、治療について	木幡
4月27日	29	整形外科	疾患の概要、評価、治療について	高村
5月7日	30	まとめと評価		佐藤
教科書 参考書	それぞれに必要な文献、教科書等			
授業に必要な物				
備考	教員とコミュニケーションを取りながら各疾患についての理解を深めていくよう行動すること。			

【科目名】	理学療法各論VI(発達障害)	専門分野(1単位)	【講師名】 沼田 映美(理学療法士):医療機関にて10年実務経験				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】 第3学年 理学療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間15回)		【時間帯】 9:00 ~ 10:30 (他時間割参照)				
授業内容・目標	正常運動発達と小児疾患に対する理解と国家試験対策						
前提知識	デンプー式発達スクリーニング検査および遠城寺式発達検査について 脳性麻痺やダウン症に対する病理的知識と理学療法について						
【実施形態】	講義()	演習(○)	実習()				
到達目標	国家試験に必要な知識を身に付ける						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	90				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解	○	○				
	思考・推論 実践・表現		○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月5日	1	正常運動発達	反射中枢、出現時期、反射の形式	沼田
4月5日	2	正常運動発達と評価	新生児期からの発達	沼田
4月5日	3	異常姿勢反射とその見方	正常運動発達を阻害する反射	沼田
4月12日	4	脳性麻痺総論①	病態、原因、進行、理学療法	沼田
4月12日	5	脳性麻痺総論②	痙直型脳性麻痺、アトニー型脳性麻痺	沼田
4月12日	6	脳性麻痺各論①	評価、理学療法プログラム	沼田
4月12日	7	脳性麻痺各論②	家族を含む多職種との関わり、環境、資源の活用	沼田
4月19日	8	ダウン症等	病態、原因、進行、理学療法	沼田
4月19日	9	二分脊椎等	病態、原因、進行、理学療法	沼田
4月19日	10	脊髄損傷	病態、原因、進行、理学療法	沼田
4月23日	11	国家試験対策	評価法	沼田
4月26日	12	国家試験対策	評価法	沼田
4月26日	13	国家試験対策	評価法	沼田
4月26日	14	国家試験対策	評価法	沼田
5月7日	15	まとめと評価		沼田
教科書 参考書	PT・OT国家試験 必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 医歯薬出版株式会社			
授業に必要な物				
備考				